

しみず そうとく
清水 宗徳

実業家・元衆議院議員

1843(天保14年)～1909(明治42年) 67歳没

1. 狭山市とのかかわり

広瀬村の名主清水寛一の長男に生まれる。幼いころから才能にすぐれていたという。学問と書道、和歌と国学を師に学ぶ。20歳で上広瀬村の名主役を継いで、村のために尽くす。同じ年、村内の下邑せき子と結婚。男の子二人をもうける。



清水宗徳（明治20年頃）

2. 主な業績

①養蚕の奨励

広瀬地方は絹織物が盛んで、昔から斜子織(ななこおり)の産地であった。常に村の活性化を心に置いた宗徳は、養蚕を奨励。村の荒地を拓いて桑の苗木を与えて栽培させた。

②機械製糸工場の設立と斜子織の改良



斜子織の石碑(広瀬神社)

製糸場の建設設備等を研究し、埼玉県内初の機械製糸場を設立した。妻のせき子は村の子女数名をつれて、富岡の製糸工場に見習いに行き、その仕事を伝えるという熱心さであった。すでに上広瀬を中心に絹織物が盛んであったが、織物は川越に集められて江戸に出荷、「川越斜子」として売られていた。しかし「斜子織の本場は広瀬である」として宗徳は更なる品質改良に取り組み「広瀬斜子」として販路拡大に努めた。

③学校を開く

宗徳は、教育の大切さを早くから説き、狭山市内で最初の小学校「広瀬郷学校」「幼童学校」を設立している。学制が発布される前のことである。

④県会議員・国会議員

明治12年埼玉県会議員に、明治23年第1回普通選挙で国会議員となり、勸業・社会資本等の充実につとめた。

④鉄道の敷設

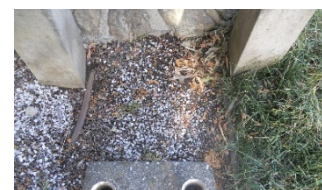
宗徳は、国土の発展と産業の発達を図るには何よりも交通機関の整備が必要との強い信念をもつ。川越から入間川・所沢を経て国分寺に至る鉄道の敷設に執念を燃やし、明治28年全線を開通させた。これを契機に入間川町は穀物の集積地として発展し、町内には米穀などを扱う商店が増えた。さらに水富村や飯能町の人々は、入間川～飯能間を結ぶ交通機関の敷設を要望し、宗徳によって設立されたのが入間馬車鉄道であった。

3. 特筆

俳句に長じ、号は不朽軒義同(ふきゅうけんぎどう)

「伸びすぎて 取り残さるる 土筆かな」

明治42年67歳で歿した。墓は広瀬の台地に葬られ墓の下には馬車鉄道で使われたレールがある。



墓の下のレール